（様式2）　　平成　26　年度

# 1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0572110104 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人　大館圏域ふくし会 | | |
| 事業所名 | グループホームたしろ | | |
| 所在地 | 秋田県大館市岩瀬字上岩瀬上野35番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年12月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | http://kaigo-service.pref.akita.jp/kaigosip/Top.do |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人　秋田ハッピーライフセンター |
| 所在地 | 秋田市将軍野桂町５－５ |
| 訪問調査日 | 平成27年1月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

①家庭的な雰囲気の中で、可能な限りその有する能力に応じ自立した生活を営むことが出来るよう役割分担を見出し、安心した生活空間の提供に努める。②月1回の広報誌「かわら版」の発行・家族・ボランテイア交流、利用者による花・畑作り、保育園児との交流等を通し、地域・家族に開かれた事業所を目指す。③「運営推進会議」の設置により、家族・地域・行政等が一体となり事業所の健全な運営を図る。④防災計画を基に、夜間体制の確保・消防避難訓練等を実施し、長慶荘本体と連携し利用者の安全確保に万全を尽くす。⑤認知症に係わる研修会等に積極的に参加することで、職員の専門性の向上を図る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

利用者1名に介護職員1名が配置され、常に笑顔で明るい雰囲気作りに努めることを職員間で共有し、実践につなげている。隣接して保育所があり、毎月園児が訪問し利用者と触れ合い、交流し楽しく過ごせるように生活に和みと潤いのあるホーム作りに努めている。また、月1回発行している家庭通信「かわら版」では、利用者の日常生活の状況等をお知らせし、家族からも喜ばれており、日々信頼関係も深まっている。居室の入り口には検索確認灯が取りつけられ、非常時における居室の確認のための工夫がされており、災害対策時は地域住民に災害警報サイレンを鳴らし協力を呼びかけている。

## Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | ○ | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | ○ | 2. 少しずつ増えている |
| | | | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | ○ | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅰ.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 家族や地域のとのつながりを大切にして、笑顔でその人らしく、いきいきとした生活を送れるようにします。という理念を基に地域との交流を大切して、家庭的なホームを築くよう努力している。 | 理念である、家族や地域とのつながりを大切にして笑顔でその人らしくいきいきとした生活を送れるように、全職員がミーティング等で共有し実践に繋げている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 隣接する保育園との交流や、地域の方を招いての交流会を開いたり、散歩して話しをしたりと交流している。 | 町内会には加入していないが、近隣地域の住民や老人クラブ等とは行事やボランティアで交流を深めている。隣接する保育園の園児が毎月訪問し、利用者と触れ合い交流し心が和み潤いのある生活にも繋がっている。また、毎年9月に消防総合訓練があり終了後参加した地域住民ときりたんぽ会を行い、さらに地域との交流を深めている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域とのつながり<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している | 運営推進会議や毎月かわら版を届けて、ホームでの取り組みを伝えている。以前に地域の介護者教室に出向き、認知症の方への理解や支援について話しをした事もある。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 外部評価の結果は運営推進会議や職員会議で伝えて、委員、職員間で話し合い、サービスの向上に活かしている。 | 運営推進会議は年6回、行政、地域包括支援センター、自治会役員、地域住民、施設長、施設長補佐、管理者、主任のメンバーで行われている。利用者の状況報告行事等について話し合いサービス向上に活かしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 毎月かわら版を届けたり、待機者の人数を報告したり、運営推進会議や市主催の認知症研修に参加して、協力関係を築いている。 | 介護保険課には、毎月かわら版を届けたり、待機者の人数を報告している。市の担当者と地域包括支援センターとは、運営推進会議で情報を共有している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束マニュアルを職員で持ち、また職員間で話し合い、身体拘束のないケアに努めている。玄関のチャイム、離床センサーを使用し事故を起きないよう見守りしながら、安全に生活できるように努めている。 | 身体拘束があった場合は身体拘束廃止委員会を随時行っている。利用者の行動パターンを把握し、日中玄関には施錠していない。また、地域住民と連絡を密にして事故のないよう見守り体制に取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 職員間で常に意識して虐待防止に努めている。また、言葉使いにも注意している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修や、在宅グループでの学習会に参加した職員は研修報告書を作成し、職員会議の時に報告したり、研修報告書を見ることを、皆で理解できるいよう努めている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入所・退所時や改正時は入居者家族に説明し、理解して頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者からの要望や、面会時には家族からの意見を聞いたり、電話して相談したり、また、運営推進会議では家族からの要望を聞いて運営に反映させるよう努力している。 | 正面玄関には苦情受付ボックスを置いているが苦情はほとんどない。利用者に関する意見や要望について、昨年初めて利用者の家族に家族アンケート調査を実施し、職員会議で検討をして運営に反映させている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員会議は施設長、補佐、グループホーム職員で行い、一緒に考えている。毎朝の申し送り時には職員の意見を聞いて、皆で一緒になり築くよう努力している。 | 毎月1回、食事、環境生活、広報、行事の各委員会が行われている。また、毎朝の申し送り時や月1回の職員会議で職員の意見を出し合い随時運営に反映させている。職員の休憩室もあり、休憩時間等に配慮している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎年職務遂行能力考課の自己評価を行い、その後施設長と面談し、職員個々が向上心を持って働ける環境になっている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 法人内外の研修等や学習会に参加して、報告し合う中で、皆が向上できるよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の交流や同業者との研修に参加し、サービスの質の向上に努めている。 | | |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | グループホームへ入居する前には、本人や家族と面談し、入居しても安心して生活できるように家で使い慣れた物を持って来て頂いたり、生活習慣を継続出来るように努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前や家族交流会、面会時には家族に話しをして、一緒に支える関係作りの継続に努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている<br>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 人生の大先輩として、習慣や伝統行事等は教えて頂きながら、また、野菜作りや漬け物は一緒に行い、楽しく暮らせる関係作りを築くよう努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人や家族の思いを大切に、連絡、相談して一緒に支えあうよう努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居前に利用していた美容院には入居しても継続して行っている。家族と外出する機会も大事にしている。 | 親戚、友人が気軽にいつでも訪問できるように介護職員が配慮している。また、馴染みの美容院や買い物等には介護職員の付き添いで支援している。利用者同士の良い関係も築かれるよう努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事席の工夫や家事、ゲーム等を行い入居者同士関わりあえるよう努めている。また、気の合う物同士で外出したり、興味のあることを一緒に行い、楽しく生活できるように努めている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 法人内の他の他事業所に移動する事が多いので連絡をとったり、行事で行った時には話しをして繋がりを大事にしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居者一人ひとりの思いを大切にして、本人の希望や意向にできるだけ添えるよう努力している。 | 利用者と担当介護職員が会話した中で意向の把握をしている。また、意思疎通の困難な方には職員が優しく声かけしたりして対応している。 | 利用者の質向上のため、今年から新規事業として月1回の利用者懇談会を計画しており、実施に向けて努力されることを期待する。 |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい,これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前には生活様式や趣味等を聞いて、入居しても継続出来るよう支援している。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日健康状態の観察に努め、入居者の思い、生活リズムを大切にしたケアを心掛けている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議でケアのあり方を検討し、また、本人や家族からの要望も取り入れて介護計画を作るようにしている。 | 利用者、家族、主治医、協力医療機関等との意見を取り入れ月1回のサービス担当者会議で介護計画を作成している。また、モニタリングの見直しは6か月ごとに行われている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日の様子は日誌に入力し、また申し送りで話し合い、月の最後にはその人の状態をケーズ記録に入力し、介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる<br>※小規模多機能型居宅介護限定項目とする | | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域へ散歩に行ったり、避難訓練時には協力して頂いたり、地域交流会を開いて交流している。また野菜を頂いたりと交流している。 田代中学校祭に外出して地域と交流している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 健康診断を行い、異常の早期発見に繋がっている。また、入居する前からのかかりつけ医を継続したり、本人、家族と相談し病院を決めて受診している。 | 受診や通院は本人家族の希望により介護職員の付き添いで対応している。また、かかりつけ医の西大館病院と田代診療所の協力を得ている。薬剤師等による服薬支援などの連携体制も取れている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 管理者（看護師）に相談したり、施設長、補佐、長慶荘の看護師に相談し、適切な医療や看護が受けられるよう支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には病院看護師や医師、また必要時には相談室の方と相談し、退院後も安心して生活できるよう関係作りを築いている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状態の変化したときや薬が変更になった時は家族に報告したり、その後のことも家族と相談して他施設入所申し込み等も行っている。 | 終末期の看取りは行っていない。利用者の病状が重度化した場合、主治医、家族、職員と話し合い連携を密にした取り組みをしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 事故発生時の対応についてはマニュアルに沿って対応している。施設内学習会や研修に参加して、報告会で実践することで身につけている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行い、入居者、職員が災害時に慌てず対応できるようにしている。また、年1回は地域住民の方にも参加して頂き、避難訓練を実施している。 | 6月と9月の年2回消防総合訓練が行われ、消防署、地域住民の協力により実施している。また、緊急時の対応として隣接の地域住民に災害警報サイレンを鳴らして協力体制を築いている。 | |
| Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | 外部評価 | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩として、言葉使いや対応に失礼のないよう努めている。 | 利用者の尊厳を損ねないように言葉かけや対応に配慮している。また、利用者の身だしなみや居室等は清潔に保たれている。守秘義務については十分理解し介護職員全員が責任ある接し方に心掛けている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 外出希望がある時は散歩やドライブに行ったり、衣類や食べ物等も入居者の好みを聞いて対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者の思いを大切に、意向に沿った生活が送れるように努力している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している<br>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | 外出するときは本人の好みを聞きながらおしゃれをして出掛けるよう、また夏祭りの時は浴衣を着て、化粧したり、身だしなみやおしゃれをして楽しく外出できるよう支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日にはその人の希望のメニューにしたり、旬な山菜や漬け物や郷土料理等は一緒に作って食べて片付けたりしている。 | 利用者の嗜好を取り入れ、収穫した野菜や山菜で季節感のあるメニューで楽しく食事ができるように工夫している。また、食事の準備や後片付けは利用者の方から積極的に楽しみながら手伝いをしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎日食事摂取量や水分量を記録し、摂取量が少ないときは栄養補助食品や好みの物を食べて頂き栄養補給に努めている。咽せやすい人にはとろみをつけて食べて頂いている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 就寝前には義歯洗浄、歯磨き等を行う様に声掛け、介助している。また、口腔内清潔に保つよう毎食後、声掛けして介助している人もいる。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄確認表をつけ、時間で声掛け、誘導して、トイレで排泄できるよう支援している。 | 排泄チエック表により利用者の排泄パターンを把握し、自尊心に配慮した声かけをして自立にむけた支援を行っている。また、利用者は全員おむつは使用していない。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防として毎朝ヨーグルトを食べて頂いたり、牛乳や豆乳等、その人にあった飲料に変えたり、運動したり、また、医師に相談し下剤を服用している人もいる。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | グループホーム開設当初は、いつでもと就寝前に入浴したこともあったが、入居者に目が届かず事故が起きた。現在は入浴日を決めている。 | バイタルチエック表により利用者の健康状態に合わせ週3回の入浴を行っている。入浴を拒む方への対応はタイミングを見て入浴できるよう配慮している。また、入浴時に入浴剤やゆず、菖蒲等を入れて入浴を楽しんでいる。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりのペースに合わせ、自室やホールのソファーで休憩している。天気のよい日には布団を干して、気持ちよく眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の作用、副作用等を理解して、飲み忘れや後薬がないように服薬チェック表で確認している。また、状態変化時は早めに通院している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居前のその方の生活や趣味等を聞いて、入居しても好きな事（針仕事、豆の選別、料理等）を行い、その人にあった気分転換ができるように努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している<br>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | 季節にあった行事（花見、紅葉狩り）に外出したり、散歩やドライブをしている。希望があったときは、叶えるようにしている。 | 日常的な散歩や買い物は利用者の希望を聞いてホームで支援している。家族にも協力して頂き、一緒に外出する時もある。また花見や紅葉狩りなど季節に応じて普段は行けないところにも、希望に応じてドライブ等の支援を行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | いつでも要求があれば買い物出来るように、金庫にお小遣いを保管している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話したり、手紙を書いたり、年賀状を書いて出している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、臭い、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | ホールや玄関に季節の花を飾ったり、壁に装飾して、季節を感じて過ごせる様に努めている。 | 事業所内は吹き抜け等で広く、明るく温度差もなく居心地の良い空間である。季節毎に利用者の趣味を活かした作品を掲示し楽しんでいる。また、トイレは24時間換気であり清潔に保たれている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている<br>※認知症対応型共同生活介護限定項目とする | ホールのソファーや廊下のくつろぎ場にソファーを置いたり、廊下の端にソファーを設置して、自由に使用して頂いている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自宅で使い慣れた物をホームへ持ってきて頂き、環境をあまり変えずに、落ち着いて過ごして頂けるようにしている。 | 居室入口には、本人の顔写真が貼ってあり自分の居室を確認できるよう配慮されている。居室には寝具や家具等が置かれ、家庭的な雰囲気で居心地よく明るく暖かく清潔に保たれている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 洗濯物を自分で干せるよう、自室に物干し台を置いたり、タンスに整理ができるようにネームをつけたりして、自立した生活ができるよう支援している。 | | |